



片品村安心安全マップづくりと 除雪支援の取り組み

～高齢者等見守り支援事業・こくせつ克雪体制支援事業～



群馬県（福）片品村社会福祉協議会
係長 千明 長三

1 はじめに

片品村は群馬県の北東部に位置し、新潟県・福島県・栃木県に接している関東唯一の特別豪雪地帯に指定されています。尾瀬国立公園の麓にあり、世帯数は約1,500軒、人口は約4千人、高齢化率は約40%となっています。

片品村社会福祉協議会（以下、片品社協）は平成4年に法人化され、地域福祉の担い手として村内の高齢者・障害者等の支援を行っています。平成8年には福祉委員制度を取り入れ、主に地域の見守り活動や「ふれあいいきいきサロン」の担い手として活動しています。平成19年度に第一次地域福祉活動計画を策定し、翌年から除雪ボランティアの組織化を図りました。平成26～27年度に国土交通省「雪処理の担い手の確保・育成のためのこくせつ克雪体制支援調査」に取り組み、村内外の除雪支援について活動を継続しています。



地区別福祉関係者会議の安心安全マップづくり

2 安心安全マップづくりと安心カード（救急医療情報）について

阪神・淡路大震災をきっかけに独居高齢者等の安否確認の重要性が話題となり、翌年から福祉委員を中心に住民相互による見守りを開始しました。その後、福祉活動計画を契機に村内全域（8行政区・32集落）で安心安全マップづくり（避難行動要支援者個別支援）に取り組み、要支援者と関係情報の見える化を図り、支援関係者と共有する取り組みを毎年行っています。



安心安全マップに支援情報を記入

これは各行政区ごとに区役員・民生委員・福祉委員・消防団・婦人会・老人クラブなどの関係者が集まり、見守りや避難支援の必要な方を話し合いで選出しています。その要支援者ごとに地域支援者（3～4名）を選び、危険箇所や避難場所等の情報を加え、地図に記入しています。福祉委員は要支援者を個別訪問し、災害時の情報提供について同意を得ながら緊急連絡先等を聞き取り、個人台帳を作成しています。

片品社協ではホームヘルパーが要支援者

を訪問し、医療情報等を聞き取って個人台帳を更新し、安心カード（救急医療情報）として本人写真や処方箋などと一緒にボトルに封入し個々の冷蔵庫に設置しています。さらに個人台帳と地図をデジタルデータとして作成し、行政・消防・警察等に名簿と地図を共有しています。

この事業は日頃からの住民同士の繋がりを深め、災害時には情報共有により安否確認や避難支援が円滑になります。さらにホームヘルパーの個別訪問により、介護相談等を関係機関にスムーズに繋げられるほか、救急搬送時には迅速に緊急連絡先に確認できるようになりました。

3 片品スノーバスターズと上州雪かき道場について

地域内の独居高齢者等の除雪を地域住民がボランティアとして行う「スノーバスターズ」として組織化を行いました。降雪時にはそれぞれの地域の判断により生活路や避難路の確保として、安否確認を兼ねながら除雪を行います。地域住民が除雪をする事により、急な降雪にも対応が可能で、対象者から感謝されています。また支援から漏れた方については、役場の保健福祉課と片品社協で手分けをして村内を巡回して除雪を行っています。

さらに村外向けに除雪体験の場として



除雪ボランティア「スノーバスターズ」の活動

「上州雪かき道場」を開催しています。これは越後雪かき道場*（防災功労者内閣総理大臣表彰を受賞）から全国2例目として公認されており、安全確認などの座学と、道具の使用方法などの実技講習を行い、午後には高齢者宅の除雪を実際に体験してもらいます。人気の事業で県外から毎年多くの参加があり、安全な除雪を指導することで事故防止の啓発を行いながら、ボランティアとの交流という副産物も生まれています。



上州雪かき道場の実技講習風景

4 地域福祉と地域防災

地域住民自らが要支援者を選出し、支援する方と繋ぐことは、お互いの関係性を知らなければできない事です。住民同士が日頃から「顔の見える関係づくり」をすることで、地域の福祉力が高まります。

そして災害時には自助力・共助力・地域力と合わせ、一体となって対応することにより防災力の向上に繋がると考えます。

終わりに、福祉委員さんをはじめ多くの住民の皆さんにご協力を頂き、これらの事業ができた事に感謝致します。今後も住民相互の関係を生かした取り組みを続けていきたいと思っています。